



## 教科・科目のシラバス

芸術	音楽Ⅱ	第2学年 単位数(2単位) 選択	教材 教科書 新版 高校生の音楽Ⅱ 副教材 自主教材プリント
学習目標	① 歌唱、器楽創作による表現活動及び鑑賞活動の幅広い学習を通じて、音楽を愛好する心情を育成する。 ② ①にあげた幅広い活動を通じて、音や音楽が有する良さを感じ取り、自己の感じ取ったイメージを表現し、聞き手に伝える表現力を伸張する。 ③ 我が国や西洋音楽を含む諸外国の音楽を学習し、それぞれの音楽文化の特性を感受すると共に、多様な音楽観の育成を図る。		
評価	「関心・意欲・態度」「芸術的な感受や表現の工夫」「創造的な表現の技能」「鑑賞の能力」の4つの観点により評価する。演奏発表、提出課題(進路表・自己評価・他者評価)の評価に毎時間の出席態度・学習の意欲を加え、各学期ごとに評価する(100点法による絶対評価。)学年末には、各学期成績を統括し、評定をつける。		

学習計画		題材・教材	教材・器楽	題材の指導内容
学期	月	歌唱	器楽	歌唱
1	4	民族と音楽(世界の旅) おおシャンゼリゼ コンドルは飛んでいく	ギター アルトリコーダー 1年生に学んだ運指及び奏法について 旋律奏 旋律奏	・様々な歌を通して、歌うことの楽しさを感じ取らせる。 ・発声法の基本の習得(姿勢・呼吸等) ・重唱活動における協調的な態度の育成。
	5	愛を歌う 明日に架ける橋 愛の賛歌	乾杯 エーデルワイス 同 伴奏(アルペジオ)サウンドオブサイレンス 同 弾き語り 2重奏	器楽 ・リコーダーの奏法と基本的な運指の確認 ・リコーダーの音域や種類についての確認
	6	劇と音楽 メモリー 美女と野獣	イエスタデイ 同 伴奏ストローク奏 (3重奏)	・重奏曲の練習を通してアンサンブルの楽しみを味合わせる ・自らギターで伴奏し弾き語りができるよう歌唱部分と伴奏部分を個別に練習させる。 ・ストローク奏においては、ダウンストローク奏だけを用いる。
	7	上記より実技テスト	上記より実技テスト	
2	9	自然を歌う・ 創作 すべての山に登れ 作曲活動 雨にぬれても ・音を並べよう	器楽 ギター アルトリコーダー 旋律奏 3重奏	・1学期の2重唱を基礎としさらに声部を増やし同声3重唱をし ・ハーモニーを感じさせる。また協調的な態度の育成を図る。 ・リコーダーにおいては、1学期で習得した技術を3重奏に生かす。 ・どのパートも演奏できることをめざし、グループ内でパートを決定しアンサンブルする楽しさを味あわせる。
	10	劇と音楽 ・和音を使って 右から2番目の星・和音を使って Oh happy day ・非和音①を使用 ・非和音②を使用	さんぼ Yesterday once more 3重奏 千の風になって(2重奏) 四季より「春」	・作曲 ・コードネームを構成している音や構成していない音を用いてその違いを学ばせる。 ・非和音(経過音、補助音)の性格や、使用条件を説明し模範作曲例を参考にし指示されたコード進行通り8小節の小曲を作曲させる。 ・毎時間生徒の作曲
	11	芸術と音楽・7thコードについて カタリカタリ 上記ペーパーテスト	3重奏	・作曲した小曲をギター、リコーダーで演奏させる。
	12	上記より実技テスト	上記より実技テスト	
	1	同声3部合唱 見上げてごらん夜の星を	ギター アルトリコーダー3重奏 独奏 「もののけ姫～となりのトトロ」 星の世界 LOVELOVELOVE(3重奏)	歌唱・アルトリコーダーのパート練習の徹底 ・パート1の練習 ・パート2の練習 ・パート3の練習をしどのパートも演奏することめざしグループ内でパートを決定しアンサンブルの楽しみを味合わせる。
2	上記より実技テスト	上記より実技テスト		



# 教科・科目のシラバス

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術	美術 I	2	1	高校美術 I	

※	到達目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。
	到達目標に向けての具体的などりくみ【指導上の留意点】	基礎的な用具の使用方法や、基礎的な描写技術、着色技術を身につけさせる事によって、美術表現に対しての興味関心を持たせる。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4月	オリエンテーション 人物デッサン 静物デッサン	計画的に制作し、完成作品を提出することの大切さを理解する。用具材料を正しく使用する。立体感、材質感を大切に描き方を理解する	授業態度、提出作品の採点	鉛筆の使用法、対象の観察力
5月	レタリング練習 色彩構成練習	文字の種類、描き方を理解する。 着色技術、色の3属性、明度、彩度などの色彩の基礎を理解する	授業態度、提出作品の採点	着色方法、レタリングの基本理解
6月	透視図基礎練習	着色技術の修得、 立体感を感じる着色法を理解する。	授業態度、提出作品の採点	着色技術、色彩の基本理解
7月				
8月	高校展鑑賞レポート	他の人の作品を見ることで、表現の幅やそれぞれの工夫について体得する。	鑑賞態度、レポートの採点	鑑賞での感動の表現力
9月	モダンテクニック練習	様々な技法を学び、作品制作の表現の幅を広げる。	授業態度、提出作品の採点	着色の表現力
10月	イラストレーション作品制作	一文字から受けるイメージを画面の中にどのように構成していくか学習する。	授業態度、提出作品の採点	発想力、表現力
11月				
12月	静物画 模写制作	優れた静物画を元に、描画法の基本を理解する。	授業態度、提出作品の採点	鑑賞力、観察力、表現力
1月	校内展示	同学年の優秀作品、他学年の展示作品を鑑賞する。	鑑賞態度、レポートの採点	鑑賞での感動の表現力
2月				
3月				

# 教科・科目のシラバス

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術	美術Ⅱ	2	2	高校美術2	

※	到達目標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、美術文化についての理解を深め、個性豊かな美術の能力を高める。
	到達目標に向けての 具体的などりくみ 【指導上の留意点】	各種の画材の使用法や、描写技術、着色技術を数多く理解する事によって、美術表現に対しての能力を高める。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4月	オリエンテーション 人物デッサン	計画的に制作し、完成作品を提出することの大切さを理解する。鉛筆の使用法、構図の重要性を学ぶ。立体感、質感、動勢表現する。	授業態度、提出作品の採点	鉛筆の使用法、対象の観察力
5月	静物淡彩画	空間を意識した複数物の構成、立体感、材質感を大切に、淡彩技術を理解する。	授業態度、提出作品の採点	着彩方法、構成力、対象の観察力
6月	パズルの作成	パズルとしての図形の制約を理解し、楽しく美しい作品の完成を目指す。	授業態度、提出作品の採点	デザイン、切断技術、着彩
7月				
8月	高校展鑑賞レポート	他の人の作品を見ることで、表現の幅やそれぞれの工夫について体得する。	鑑賞態度、レポートの採点	鑑賞での感動の表現力
9月	イラストレーション作品制作	四文字熟語から受けるイメージをイラストとレタリングで表現したポスターの制作	授業態度、提出作品の採点	着彩の表現力
10月	ポスター制作	一文字から受けるイメージを画面の中にとのよう構成していくか学習する。	授業程度、提出作品の採点	発想力、表現力
11月				
12月	点描画制作	点描の技法を理解し、立体感のある想像画を制作する。	授業程度、提出作品の採点	発想力、表現力
1月	校内展示	同学年の優秀作品、他学年の展示作品を鑑賞する。	鑑賞態度、レポートの採点	鑑賞での感動の表現力
2月				
3月				

# 教科・科目のシラバス

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術	美術Ⅲ	2	3	高校美術3	

※	到達目標	美術の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。
	到達目標に向けての 具体的などりくみ 【指導上の留意点】	各種の画材や、描写技術、着色技術を利用し、自己を表現した作品を制作する。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4月	オリエンテーション 人物デッサン	計画的に制作し、完成作品を提出することの大切さを理解する。鉛筆デッサンの技術、構図、立体感、材質感を理解する。	授業態度、提出作品の採点	鉛筆の使用手法、対象の観察力
5月	風景スケッチ	校内の風景を季節感豊かに、淡彩画法で描く。	授業態度、提出作品の採点	対象の観察力、着彩方法
6月	構成品	複数の作家作品の絵の一部分を自由に模写し、構成することによって独創的な物語のある作品を制作する。	授業態度、提出作品の採点	発想力、表現力
7月				
8月	高校展鑑賞レポート	他の人の作品を見ることで、表現の幅やそれぞれの工夫について体得する。	鑑賞態度、レポートの採点	鑑賞での感動の表現力
9月	平面大作制作	高校美術の集大成としてB1パネルに水張りをし、自由テーマ自由画材の平面作品を制作する。	授業態度、提出作品の採点	計画性、発想力、表現力
10月				
11月				
12月	切り絵	伝統的な切り絵の技術を会得し、個性あふれる切り絵作品を制作する。	授業態度、提出作品の採点	発想力、表現力
1月	校内展示	同学年の作品、他学年の展示作品を鑑賞する。	鑑賞態度、レポートの採点	鑑賞での感動の表現力
2月				
3月				

## 教科・科目のシラバス

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術	書道 I	2	第1学年	書 I	

※	到達目標 書道の幅広い活動を通して、書に関心を持ち愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。
到達目標に向けての 具体的などりくみ 【指導上の留意点】	楷書を中心とした学習の中で、書写での基本的な用筆法・字形の基本を学ぶことで文字への興味・関心を促し、さまざまな古典を、発展的に学習することで、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4月	書写から書道へ	楷書の基本点画の学習	プリントと提出作品	指導内容を理解した作品制作がなされているか。
5月	同上	基本点画と字形の構築	プリントと提出作品	指導内容を理解した作品制作がなされているか。
6月	楷書の古典学習	さまざまな古典臨書を通じ、技術の発展と鑑賞能力を高める。	プリントと提出作品	指導内容を理解した作品制作がなされているか。
7月	細字での楷書の学習	古典臨書で高めた書写での文字構築性や技術を細字でも生かす。特に氏名の学習に力を入れる。	プリントと提出作品	指導内容を理解した作品制作がなされているか。
8月				
9月	楷書での作品制作	楷書で1文字作品を制作。団扇に仕立てる	プリントと提出作品。完成時のレポート	各自が設定した要点を認識し作品制作がなされているか。
10月	楷書の学習と鑑賞	古典を比較しながら臨書し、その特徴を理解し、技術の発展を目指す。	プリントと提出作品	指導内容を理解した作品制作がなされているか。
11月	行書の学習(基本と古典学習)	行書の特徴と基本点画の学習	プリントと提出作品	指導内容を理解した作品制作がなされているか。
12月	行書の古典学習	さまざまな古典臨書を通じ、技術の発展と鑑賞能力を高める。	プリントと提出作品	指導内容を理解した作品制作がなされているか。
1月	漢字仮名混じり文の学習	用具・用材」の変化による表現と意図に基づく表現	プリントと提出作品	指導内容を理解した作品制作がなされているか。
2月	同上	同上	プリントと提出作品	指導内容を理解した作品制作がなされているか。
3月				

## 教科・科目のシラバス

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術	書道Ⅱ	2	第2学年	書Ⅱ	

※	到達目標	書道の創造的な諸活動を通して、書を愛好する心情を育成するとともに、感性を高め、書の文化や伝統についての理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞能力を伸ばす。
到達目標に向けての 具体的などりくみ 【指導上の留意点】		さまざまな書体の文字を学習することで、文字の発展の過程や時代背景など理解を促す。さまざまな古典を学習することで、探究心を育成し鑑賞能力を高める。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4月	行書・草書の学習	基本用筆法と時代背景を学ぶ	提出作品とプリント	指導内容を理解した作品制作がなされているか。
5月	行書・草書の学習	さまざまな古典臨書を通じ、技術の発展と鑑賞能力を高める。	提出作品とプリント	指導内容を理解した作品制作がなされているか。
6月	行書・草書の学習	さまざまな古典臨書を通じ、技術の発展と鑑賞能力を高める。	提出作品とプリント	指導内容を理解した作品制作がなされているか。
7月	文化祭への出品作品の制作	生徒の実態を考慮した内容で作品を制作する。	提出作品とプリント・完成時のレポート	作品制作時の制作意図を明確にし、それに伴った工夫がなされているか。
8月				
9月	文化祭への出品作品の制作	生徒の実態を考慮した内容で作品を制作する。	提出作品とプリント・完成時のレポート	作品制作時の制作意図を明確にし、それに伴った工夫がなされているか。
10月	篆書の学習	篆書の基本用筆法と時代背景を学ぶ	提出作品とプリント	指導内容を理解した作品制作がなされているか。
11月	篆書の学習	さまざまな古典臨書を通じ、技術の発展と鑑賞能力を高める。	提出作品とプリント	指導内容を理解した作品制作がなされているか。
12月	篆刻	自分の氏名を漢の時代の官印調の印に仕上げる	提出作品とプリント	指導内容を理解した作品制作がなされているか。
1月	隷書の学習	基本用筆法と時代背景を学ぶ	提出作品とプリント	指導内容を理解した作品制作がなされているか。
2月	隷書の学習	さまざまな古典臨書を通じ、技術の発展と鑑賞能力を高める。	提出作品とプリント	指導内容を理解した作品制作がなされているか。
3月				

# 教科・科目のシラバス

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術	書道Ⅲ	2	第3学年	書Ⅲ	

※	到達目標	書道の創造的な諸活動を通じ、生涯にわたり書を愛好する心情と書の文化や伝統を尊重する態度をいっせいするとともに、感性を磨き、個性豊かな書の能力をたかめる。
	到達目標に向けての具体的などりくみ【指導上の留意点】	作品制作時の制作意図を明確にし、それに伴った工夫をすることで書の諸能力を高めていく。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4月	漢字仮名混じり文での作品制作	漢字仮名混じり文で作品制作を行なうための基本的な表現方法の学習	提出作品とプリント	指導内容を理解し、各自工夫し作品制作がなされているか。
5月	漢字仮名混じり文での作品制作	各自選択した「漢字仮名混じり文」を上記学習内容を踏まえ、作品を創作する。	提出作品とプリント・完成時のレポート	作品制作時の制作意図を明確にし、それに伴った工夫がなされているか。
6月	前月の続き 及び 制作作品の表具	作品を展示可能な状態に表具する。	提出作品と完成時のレポート	自分の作品に愛着を持ち、製作しているか。また、その際の積極性。ただし、客観的評価が困難思であるので、評価よりも完成時の喜びや反省を、次回作に生かせるよう指導したい。
7月	前月の続き と 篆刻	制作した作品に押印する 印の制作	提出作品と完成時のレポート	作品制作時の制作意図を明確にし、それに伴った工夫がなされているか。
8月				
9月	実用書の学習	硬筆を中心とした実用書を学び、常識的な書式や文化を理解する	提出作品とプリント	要点を認識し作品制作がされているか
10月	作品制作…①	書道Ⅰ・Ⅱの学習を踏まえ半切作品を制作する。書体は各自選択で創作する。	提出作品とプリント	各自が設定した要点を認識し作品制作がされているか
11月	古典臨書作品制作…②	書道Ⅰ・Ⅱの学習を踏まえ、細字で全臨作品を制作する。	提出作品とプリント	各自が選択した古典の特徴を認識し作品制作がされているか
12月	同上	同上	同上	同上
1月	表具	上記①②で制作した作品を1点選択し表具する。	完成時に評価する。	
2月	同上	同上	提出作品と完成レポート	作品制作時の制作意図を明確にし、それに伴った工夫がなされているか。
3月				

## 教科・科目のシラバス

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術	書道演習	2単位	3学年		

※	到達目標	書を生活の中で身近なものであると認識し、文化的教養を身に付けるとともに表現することを通じ自他を尊重する心を養う。
	到達目標に向けての 具体的などりくみ 【指導上の留意点】	個々の表現意図を十分に引き出すためには、生と一人一人としっかりと会話する必要があるため、ある程度、時間をかけた作品製作が望ましい。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4月	一文字作品製作	力強い縦長など表現を指定することで同じ文字でもイメージが様々に変化することを確認し、個々に一文字を設定しイメージを具体化した作品を制作する。	完成時のレポート・作品	意識的に同じ文字を書き分けようとしているか。 そこに個々の工夫が見られるか。
5月	いろはうたによる作品製作	「いろはうた」を題材に作品製作をする。全員同じ言葉を使用し、作品製作をする上で、自分にしか書けない作品をテーマにし、文字における個性と表現の工夫を個々に見つけ出す。	作品 完成に至るまでの作品	自分なりに工夫した点や表現の意図を具体的に言えるかどうか。
6月	「いろはうた」作品のパネルまたは軸装	製作した作品を展示できる形にすることで書作品への関心を深めるとともに次回作への向上心と反省の年を促す	完成時のレポート	表具(装丁)作業において自分の作品を大切に扱えるかどうか。
7月	篆刻 硬筆	「いろはうた」作品に押す印の制作 履歴書の書き方など	作品	作品に合う印になるよう工夫されているか 丁寧さ見易さとは何かを自覚しているか
8月				
9月	漢字仮名交り文	童話など一つの話講座人数で分割し共同作品を作る	作品 完成に至るまでの作品	自分なりに工夫した点や表現の意図を具体的に言えるかどうか。
10月	実用細字	祝袋など冠婚葬祭を中心とした書式を学ぶとともに、字くばりなどのバランス感覚を学ぶ	作品	少しでもよく見せるための工夫として丁寧さ、バランスなど注意してかけているか。
11月	硬筆	手紙文の書き方 礼状など時候の挨拶を踏えた手紙文	作品	少しでもよく見せるための工夫として丁寧さ、バランスなど注意してかけているか。
12月	作品集の製本	漢字仮名交り文で制作した個々の作品を一冊の本に製本する	完成作品	作業内容を理解し、積極的に作業に参加しているかどうか
1月	感謝状の制作	賞状の配字のルールを守り、本校在学中に世話になった人への感謝状を書く	作品	書式にのっとり丁寧に書いているか
2月				
3月				

## 教科・科目のシラバス

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
音楽	器楽	2	3年生		自主教材プリント

学習目標	クラシックギター奏法初歩のソロから弾き語り・アンサンブルまで演奏する能力を身につけさせる。 コンピューター(ミュージックソフト)を用いて創作活動(作曲)を行い、作詞作曲をする能力を養う。
評価	「関心・意欲・態度」「芸術的な感受や表現の工夫」「創造的な表現の技能」の3つの観点により評価する。演奏発表、提出課題(進路表・自己評価)の評価に毎時間の出席態度・学習の意欲を加え、各学期ごとに評価する(100点法による絶対評価。)学年末においては各学期成績を統括し評定をつける。

月	単元・教材名	学習内容	指導の留意点	評価のポイント
4月	ガイドンス(クラシックギターを始めよう 夕やけ小やけ 1番星見つけた 愉快的牧場	左手1カ所を押さえるだけで、あと2つの音は開放弦であることを意識させる	開放弦の多用であることを認識させ順次増加していくことを意識させる	左手1カ所の音が十分響いているかどうか
5月	キラキラ星 チューリップ 愛しのクレメンタイン かっこう	上向き棒による主題と、下向き棒の変奏の2つから構成されていることを確認させる	主題の旋律奏を練習させ低音域に変奏曲が付け加わっていることを感じさせる。	旋律部分と変奏部分が均等に演奏できているか
6月	蛍の光 子守歌 星の世界	コードを用いた伴奏を組み込んで主題を演奏させる(コードの構成に気を付けさせる)	ポジションの移動及び、の変化。重音奏法の多用であることを覚えさせる	コードの音(伴奏部分)が明確に演奏出来ているか
7月	追憶	親指だけの演奏、人差し指・中指・薬指を用いた独奏曲の徹底	アポヤンド奏法とアルアレイ奏法の違いを覚えさせる	アポヤンド奏法とアルアレイ奏法の区別が出来ているかどうか
8月	愛のロマンス	ギターの代表曲に挑戦させる	主題部分と伴奏部分が均等に弾けるように心がけさせる	高音域の主題が十分響いているか
9月	ミュージックソフトを用いた 作曲活動 音符の入力 既習曲の 入力:ドレミの歌 :上を向いて歩こう	八長調の音階:全音符:二分音符:四分音符:八分音符で入力 旋律の入力	五線紙への入力と鍵盤入力の違いを理解させる。	デスクトップ上のマウス操作が正確に出来ているか。正確に旋律が入力出来ているか
10月	4小節の作曲 8小節の作曲	1小節の指示された旋律に続く旋律を作曲させる。	指示された旋律(特にリズムの反復に注意させる)終止音の説明	旋律が美しく流れて自然に終止しているか
11月	16小節の作曲	課題詞および自由詩への作曲 校歌の作曲	詩の意味や詩の持つリズムを感じさせる	無理なく旋律が流れ、詩の持つ意味や詩の持つリズムがかみ合っているか
12月	16小節の作曲	課題詞および自由詩への作曲	詩の意味や詩の持つリズムを感じさせる	無理なく旋律が流れ、詩の持つ意味や詩の持つリズムがかみ合っているか
1月	弾き語り 乾杯、わかれうた	聞き慣れた主題に伴奏を付け、自ら伴奏し(アルペジオ奏法、ピッキング奏法)自ら歌唱させる。	伴奏に気をとられないように歌唱もしっかり歌わせる。 旋律が低音声域から始まることに注意させしっかり歌わせる	歌唱とギター伴奏の一致
2月				
3月				

## 教科・科目のシラバス

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
専門教科	クラフトデザイン	2	3		

到達目標	クラフトデザインでは、中学校美術の学習した工芸分野の表現と鑑賞の力をさらに伸ばすことを目標にしている。用途に応じた美しい形を創造し、素材の長所や特性をよく理解しながら、ねばり強く制作する態度を養う。工芸作品のよさや美しさ、作者の心情や表現意図、現代の工芸や伝統的な工芸及び地域の工芸の特質などを感じ取ったり、理解したりして、感性や工芸を愛好する心を高める。
到達目標に向けての具体的なとりくみ 【指導上の留意点】	各種の素材や、加工技術、着色技術を利用し、用途に応じた使いやすく、自己を表現した工芸作品を制作する。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4月	オリエンテーション デッサン	計画的に制作し、完成作品を提出することの大切さを理解する。鉛筆デッサンの技術、構図、立体感、材質感を理解する。	授業態度、提出作品の採点	鉛筆の使用法、対象の観察力
5月	文字看板の制作	自分の好きな文字または名前を切り抜き、着色した文字看板の制作	授業態度、提出作品の採点	デザイン、加工技術、着色方法
6月	木彫目玉焼き	目玉焼きの抽象的な形態を木彫で表す	授業態度、提出作品の採点	デザイン、加工技術、着色方法
7月				
8月	高校展鑑賞レポート	他の人の作品を見ることで、表現の幅やそれぞれの工夫について体得する。	鑑賞態度、レポートの採点	鑑賞での感動の表現力
9月	木彫時計	時計盤としての木彫を加工することで、時間を表示する機能と装飾の美しさを考える	授業態度、提出作品の採点	計画性、デザイン、加工技術、着色表現力
10月				
11月				
12月				
1月	お面の制作	様々な面を鑑賞後、独自の表現としての面を制作する	授業態度、提出作品の採点	デザイン加工技術、着色方法
2月	校内展示	同学年の作品、他学年の展示作品を鑑賞する。	鑑賞態度、レポートの採点	鑑賞での感動の表現力
3月				